



特集

町民手づくりのスポーツ大会で
厳寒の農業地域が熱気に包まれる——
厚真町 冬の風物詩 あつま国際雪上3本引き大会

シリーズ「北海道のジオパーク」④ とかち鹿追ジオパーク〔鹿追町〕

ほっかいどうの本 『ヒグマは見ている 道新クマ担記者が追う』 北海道新聞社
『決定版 北海道の温泉まるごとガイド 2024-25』 北海道新聞社
『あしたに向かって 異文化の歴史と向き合う』 共同文化社



特集

町民手づくりのスポーツ大会で 厳寒の農業地域が 熱気に包まれる——



厚真町は、北海道の南西部に位置し、南北に細長く、太平洋に面した農村地帯です。北海道の空の玄関口である新千歳空港から車で約35分、札幌市からは約90分。陸・海・空すべての交通アクセスに恵まれています。豊かな森と海、黄金色に輝く田園が広がり、食料とエネルギーと環境が絶妙なバランスで整っているまちです。

厚真町 冬の風物詩

あつま国際雪上3本引き大会

2024年1月21日、「第17回あつま国際雪上3本引き大会」が、厚真町本郷にある、かしわ公園野球場内の特設会場で開かれます。2018年9月の北海道胆振東部地震で大きな被害に遭いながらも、翌2019年1月に大会を執行すると、町内外から大勢の参加者が集まり、普段は静かな真冬の農業地域が活気づきました。新型コロナウイルス禍によって2年連続で中止を余儀なくされたものの、2023年から大会を再開しています。厚真町にとって「雪上3本引き」とは——。その思いを、池川徹大会実行委員長ら地元の関係者に聞きました。（文・写真／片山健一 取材日2023年11月24日）



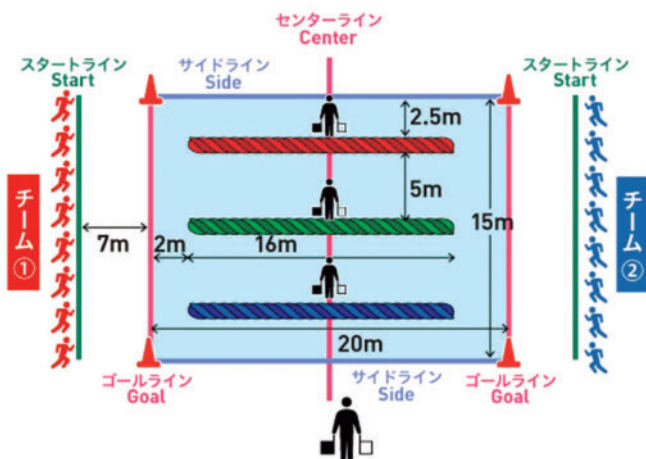
大会仕掛け人の池川実行委員長

厚真町のオリジナルスポーツ
「雪上3本引き」が誕生

3本の綱を使った綱引きを雪の上で行う「雪上3本引き」は、厚真町生まれのウィンタースポーツです。

半世紀以上続く夏の町民体育祭では、子ども向け競技として「3本引き」が行われていましたが、「大風揚げなど、かつて行っていた冬のイベントが途切れていたので、雪の上で『3本引き』をやれば滑って楽しいし、けがも少ないだろう」と、池川徹さんから厚真町商工会の若手理事が発案しました。

この雪上3本引き大会の計画が持ち上がったのは2006年のことです。翌年2月25日に大会を開催しようとして、実行委員会を組織し、ルールを決めて、町の広報誌や新聞折り込み広告で参加チームを募集しました。しかし、申し込みがなくて、幻の大会に終わりました。



雪上3本引きのコート（公式ホームページより）



最後の綱は総力戦となり、一進一退の攻防が繰り広げられます
（写真提供：あつま国際雪上3本引き大会実行委員会）※会場写真は全て同

この時の反省から、「申し込みが来るのを待ってはいはだめだ」（池川さん）と、実行委員が町内の企業や団体に出向いて参加を呼び掛けた結果、何とか目標とする16チームが集まりました。商工会の会員から協賛金を募り、2008年1月、「第1回あつま国際雪上3本引き大会」の開催へとき着けたのです。優勝賞金は3万円の商品券でしたが、「その晩、夜の街」には約80万円の経済効果がありました」と池川さんは懐かしそうに話します。

回を重ねるごとに大会の規模は拡大して、新型コロナ禍前の2020年、第13回大会には61チーム、約900人の参加があり、町の一大イベントへと成長しました。第6回大会から実行委員長を務める池川さんは、「みんなで楽しみながら続けています。実行委員会が嫌々では大会も盛り上がりませんから」と話します。

パワーとスピードに加え 頭脳戦による白熱した展開

「引け、引け！セーのっ」。
白く荒い息を吐く選手たちのすぐ横で、観客からの声援が飛び交います。

バスケットボールのコートより少し縦長サイズの特設コートで行われ

る「あつま国際雪上3本引き大会」の試合は、1セット40秒間の3セット制で、2セットを先取したチームが勝ちです。1セットに出場する選手は1チーム8人で、ヘッドギア・防寒着・手袋を着用し、足下はスパイクの無い長靴などを使用することになっています。

コート中央に並ぶ赤・青・緑色の3本の綱までは、スタートラインから最短でも9メートルあり、対峙する16人の熱い視線が綱に注がれます。合図と同時に雪上を駆け出し、3本の綱を奪い合います。このうちの2本を自分たちの陣地内の10メートル地点ゴールラインまで綱全体を引き込んだ方が、このセットを取ることでできます。40秒でゴールラインまで綱を引き込めなかった場合は、綱の中央が自陣に入っているチームのものとなります。

チームによって戦術は様々で、自陣エリア内まで綱を引き込み、ゴールライン手前で座り込む「ホールド」で時間切れを待つこともあります。日本綱引連盟の競技規則では、座り込んだり、寝転んだりするのは反則ですが、「雪上3本引き」では認められています。

3本の綱に対して8人の選手を等分に配置できないため、どの綱に人数を多く割り当て奪いに行くか、あ

るいはどの綱を捨てるのかを、対戦相手の配置や動きを見極めながら判断します。刻々と変化する戦況に応じた監督の的確な指示がコートに響き渡り、いかに瞬時に動けるかが勝敗のカギを握ります。

また、参加者の服装も重要で、雪が付いて滑りやすくなる綱をしっかりと握れる手袋は必須です。古参のチームの格好を見ると、「ホールド」の効果を高めるために滑りにくい素材の防寒着を選んでいて、経験に基づくノウハウがあるそうです。

「他のチームの対戦を見ていたら、『こっちの綱に行けばいいのに』と思うこともあります。実際に自分が戦っている時は、目の前の綱しか見えないし、指示の声が聞こえないことも多いですよ」と、町内で造園業を営み過去10回ほど出場している



スタートダッシュが勝負の行方を左右します



役場の職員が協力し審判などを務めます

金谷泰央さんは説明します。

高校時代はラグビー部で鍛えた金谷さんですが、「試合直後は酸欠状態になるぐらいハード」だと言います。単なる力比べではなく、「相手チームよりもいち早く綱を掴んでゴールまで引き込めれば一気に有利になりますし、途中で他の綱に移るタイミングによって、劣勢から逆転することも可能です」と、金谷さんは競技の魅力を語ります。

優勝チームには賞金20万円と厚真町産のお米「ななつぼし」をブランド化した「さくら米」80結などが渡ります。上位入賞チームにも豪華賞品が用意されています。金谷さんは「勝ち負けにこだわらず、仲間と参加するだけでも楽しい大会です。遠くから来た商工会青年部のメンバーとの交流や、震災の時に復旧を手伝ってくれた大学生たちに再会できるのも楽しみのひとつです」と笑顔を見せます。



夫婦で出場したこともある金谷さん

ルールを見直しながら 魅力を高め参加者拡大へ

「いずれは国際大会に」（池川さん）と始めた「雪上3本引き」の魅力をより高めるため、大会ルールなどを少しずつ見直してきました。

最初の大会では、「1チームの登録数は12人以内で出場は10人まで、うち女性を2人以上含む」という規定でしたが、交代要員がもっと必要との意見を踏まえ、2012年（第5回）大会からは「出場選手を10人から8人に減らし、女性選手は1人以上」とする一方で、「登録人数は16人」に拡大しました。

通常の綱引きと同様、体重が重く、力のある選手を擁するチームに有利な傾向がある中、素早い動きで軽量のチームが勝利すると会場が盛り上がるため、2015年（第8回）大会からはスタートラインを2メートル後退させました。さらに、2016年大会からは選手の体力消耗を軽減するため、1セットの時間を1分

から40秒に短縮しました。

また、2010年（第3回）大会から町外チームも参加できるようすると、右肩上がりで参加者数が増えました。その一方、2020年大会では厚真町の住民を中心とするチームは全体の4分の1ほどの割合となりました。選手は20〜40代が中心で、「高齢化もあってメンバーを集めるのも大変」（金谷さん）という事情もあるようです。

町外からの参加は、苫小牧市や千歳市など近隣が多い中、旭川市や八雲町など100キロ以上離れた地域からも参加があります。札幌市在住のインドネシア留学生チームがここ数年連続で参加するなど国際色も出てきました。

今年の大会からは女性が1人以上競技に参加するという性別に関する条件を撤廃したため、これまでと違った試合が観戦できる可能性があります。

震災などの困難を乗り越え 大会は新たなステージへ

2018年9月6日の午前3時7分、北海道胆振東部地震が発生し、最大震度7という強い揺れが厚真町を襲い、甚大な被害が生じました。「震災は悲しい出来事でしたが、大

会を中止しようとは考えませんでした。報道などで取り上げられ、一層注目してもらえようになりました」と池川さんは振り返ります。

2019年1月20日の第12回大会は、当時の最多記録を更新する58チーム、約800人が参加しました。優勝チームの「パンプアップ塾 苫小牧」は、賞金の一部を町に寄付してくれたそうです。

また、震災前に「雪上3本引き」種目の実施が決まっていた大規模スポーツイベント「ほっかいどう大運動会2019」にも、審判や運営のサポート役を務めるため町民が会場の札幌ドームに駆け付けました。

「『雪上3本引き』が多くの人目の目に触れたことで、新たなチームが厚真の大会に来てくれるようになりました」（池川さん）。ほっかいどう大運動会実行委員会からも収益金の一部が被災地に寄付されるなど、「雪上3本引き」を通じた交流や支援の輪が広がりました。

実行委員会を支える事務局は厚真町商工会内にあり、後援には厚真町、厚真町教育委員会、厚真町体育協会、厚真町観光協会などが名を連ねています。事務局は、新聞やテレビ、ラジオなどのメディアやSNS（会員制交流サイト）を通じた大会の告知、プログラム作成、組み合わ



試合の合間には名物のあつまジンギスカンやうどん、甘酒などで体を温めます



トラックの荷台をステージ兼表彰台にします



事務局を担う厚真町商工会の
大友さん

せ抽選会などを行います。

2023年1月15日、3年ぶりに開催した第16回大会は、過去最高だった2020年大会の半分、30チームの参加にとどまりました。「まだ新型コロナウイルスの影響があり、会社からの自粛要請で参加できないチームも多くありました」と担当する商工会の大友隆行さんは説明します。

「たくさんの参加者が来てくれると、達成感も大きいです」と話し、過去の参加チームへ電話で連絡しています。

コート造りは例年、雪の降り具合を見ながら、商工会のメンバーらが車や重機で均しながら圧雪状態にしていきます。ところが2020年は、大会直前になっても雪がほとんど積もらず、コートが造れないというピンチに陥りました。そこに町内でダム工事を手掛けていた札幌の大手建設会社が協力を申し出て、約70トン離れた当別町からダンプトラック30台分の雪を運び込んで、タイヤやショベルなどで雪を均し、無事開催

できました。

厚真町役場も全面的にバックアップし、年間100万円を超える助成を行っています。大会ではコート1面につき主審と各綱担当の副審3人、ラインズマン（線審）2人、時計係、呼び出し係の8人が必要になりますが、これらの大半は役場職員が引き受けています。2014年の元日にはNHKが「雪上3本引き」を全国生中継するため、実行委員や役場職員らが総出で大晦日から準備をしました。同年10月に「雪上3本引き」を商標登録したのは、宮坂尚市朗町長からの提案でした。

商工会女性部は、温かいうどんなどのサービスをを行っているほか、北海道胆振総合振興局からも職員が手伝いに駆け付けます。「たくさん集まってくれた参加者を前にあいさつするのはうれしいものです。本当



少雪の時には遠方の町から雪を運び込んで会場を造りました

お問い合わせ先
あつま国際雪上3本引き大会実行委員会
〒059-1601
勇払郡厚真町京町37番地 厚真町商工会内
☎0145-271-2456
FAX 0145-271-3877
電子メール info@3jugs-of-war.com
HPアドレス https://3jugs-of-war.com

に、いろいろな方に助けられて継続開催できています」と池川さんはしみじみと語ります。

綱引き専用のヘッドギアが製造中止になるなど、「綱引き自体が下火になっているのでは」と池川さんが心配する一方で、「子どもたちにやらせてみたい」と綱などの道具を町外から借りて来る学校も現れています。第17回を迎え、地元根付いた手づくりのイベントを池川さんは「次の世代へ引き継ぎ新たな発想で大会を盛り上げられたら」と、更なる発展に期待します。



副賞の一つさくら米を抱える優勝チームのメンバー

火山と「しばれ」が生んだ奇跡



「然別湖」の周囲には手つかずの森林が広がっている
(写真提供：とにかち鹿追ジオパーク推進協議会)



風穴地帯には「エゾナキウサギ」が生息するなど独自の生態系が形成された

冷えて固まるときに多数の亀裂を生じ、崩れて斜面を覆いました。また、亀裂から侵入した水が凍結と融解を繰り返して岩が崩れる「凍結破砕」が起こり、湖の周辺には「岩塊斜面」と呼ばれる岩がゴロゴロした場所が多数存在しています。「岩塊斜面」は、とにかち鹿追ジオパークの特徴と言える「風穴地帯」

大雪山国立公園の山並みに抱かれた「然別湖」とその周辺では、火山活動で誕生した地形と寒冷な気候により独特な生態系と景観がみられます。その貴重な自然遺産を保全し、教育やツーリズムを通じて持続可能な地域を目指す地元の活動が認められ、2013年に鹿追町全域が日本ジオパークに認定されました。

約200万年前に「然別湖」の北側や東側で活動を開始した火山活動により、この地域の火山地形が形成され始めます。約30〜10万年前には旧期然別火山群が活動し、湖の西に位置する成層火山の南ベトウトル山と北ベトウトル山が育んだ生態系

ル山ができました。最も新しい活動は約6〜1万年前の新期然別火山群で、湖の南にある西ヌプカウシヌプリや東ヌプカウシヌプリなどができました。この時の噴火では粘り気のある溶岩が噴出し多数の溶岩ドームが成長したことで川がせき止められ、標高約800mの場所に「然別湖」が誕生しました。

地形が育んだ生態系

せき止められた湖は、生息していた川魚「オシロコマ」を閉じ込めました。川より餌の少ない湖でプランクトンを効率よく食べられるようにエラの機能を発達させるなど環境に適応し、然別湖固有の亜種「ミヤベイワナ」となりました。

火山活動で生じた溶岩ドームは、



結氷した湖上に現れる「しかりべつ湖コタン」は毎年地域の人たちが一丸となって造成する
(写真提供：とにかち鹿追ジオパーク推進協議会)

帯」を生み出しました。岩場の隙間内は、冬の空気のため込まれていて冷たく、春に流れ出る雪融け水を地下で再び凍結させます。地下の一部は何年間も氷点下にある永久凍土の状態で、西ヌプカウシヌプリの地下から約4000年前の水が見つかりました。夏には岩の隙間から冷たい風が吹き出します。

「風穴地帯」に生息する代表的な動物が「エゾナキウサギ」です。岩場を好み、限られた場所で見られにくい

ため、その愛らしい姿を求めて多くの人が訪れます。「風穴地帯」では冷涼な環境で育つミスゴケ類、アカエゾマツ、イソツツジの仲間などが見られ、はるか北極圏の植生によく似た美しい景観をつくっています。

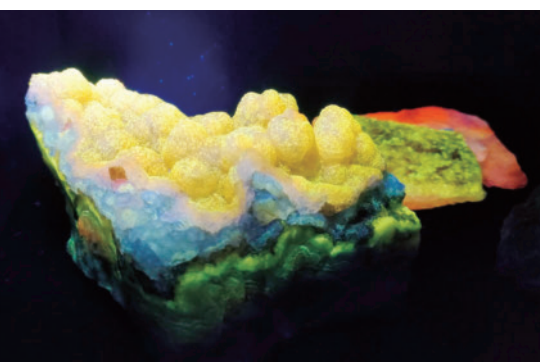
1月下旬から3月上旬にかけて、結氷した湖上には「しかりべつ湖コタン」が現れます。雪と氷で作られたコタン（アイヌ語で村の意味）には、氷上露天風呂や、アイスロッジ、アイスバーなどが立ち並び、観光客は「氷上の村」でさまざまなアクティビティを

楽しめます。

とにかち鹿追ジオパーク推進協議会は、ジオパーク活動を支えるサポートガイドと、サポートガイドの中から観光客などにジオパークの魅力伝えるジオパークガイドの養成に取り組んでいて、これまでにサポートガイド33人、ジオパークガイド3人を認定しています（2023年度当初時点）。

「北海道石」に高い注目が集まる

2023年1月、大きな話題を呼ぶ出来事がありました。鹿追町などで発見された鉱物が「北海道石」と命名され、国際鉱物学連合に新鉱物として登録されたのです。「北海道石」は町内産オパールの中に含まれていた様々な有機化合物の一種の炭化水素「ベンゼン」が結晶化したもので、紫外線を当てると黄色や黄緑色に蛍光するのが大きな特徴です。「有機鉱物が新鉱物としてみつかるのは日本で初めての事例」ととにかち鹿追ジオパーク専門員の金森晶作さんは説明し、「2023年5月の展示開始後にビクターセンターを訪れる人が例年の3倍に増えました」と関心の高まりを実感しています。新たな魅力が加わったジオパークの今後について金森さんは「北海道石が含まれる美しい標本をみてもらうと共に、保全の大切さを伝えていきたい」と話しています。



「北海道石」をはじめとする有機化合物がオパールの中で鮮やかな光を放つ
(写真提供：とにかち鹿追ジオパーク推進協議会)

ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

ヒグマは見ている 道新クマ担記者が追う

978-4-8621-110-6

内山 岳志 著／北海道新聞社 編

B5判 104頁 1430円

北海道新聞社 発行 978-4-8621-110-6



北海道北部に位置する朱鞠内湖では2023年5月、ヒグマの襲撃により釣り人が亡くなるという痛ましい事故が発生し、釣りを愛する私にとって衝撃的なニュースとなりました。

本書は大きく分けて、2019年から2023年までの北海道におけるヒグマ事故の全容を伝える「縮まる距離」、ヒグマの生態調査やヒグマを知るための著書3冊を紹介している「生態を知る」、駆除と保護のはざまでも悩ましい「対策を考える」の3部構成となっています。

札幌市東区の住宅街への出没、道東方面で家畜の被害が相次いだOSO18など、大きな衝撃を与えた事件を詳細に検証し、ヒグマの生態や習性について専門家の解説を交えてわかりやすく解説しています。また、ヒグマによる被害を減らすための対策についても、関係者の意見を踏まえて提言しています。

北海道に住む人や、ヒグマに関心のある人にとって必読の書であり、ヒグマ問題を理解するための優れた入門書となっています。

(クリエイション部 福井秀喜)

決定版 北海道の温泉 まるごとガイド2024—25

978-4-8621-115-1

小野寺 淳子 著 A5判 352頁 2310円

北海道新聞社 発行 978-4-8621-115-1



寒さが厳しいなか、温泉でほっこりしたいなと思っていたところに、北海道の温泉570湯を紹介するガイド本が出版されました。著者の小野寺淳子さんは北海道と海外の温泉事情に精通しており、札幌国際大学で「温泉学概論」などを教えています。

気軽にに行ける人気の日帰り温泉をはじめ、道民に愛され続ける伝統の名宿、効能が自慢の湯、雄大な眺望が楽しめる湯など、北海道の多彩な温泉が網羅されています。

北海道が14管内で区分され、巻末には野天温泉の情報も掲載されています。目次には各温泉名とセットで「宿泊」「日帰り」「露天」の営業情報が記載され親切なつくりになっています。

豊富な情報量で、こんなにも沢山の温泉が道内にあるのかと驚くとともに、知らなかった温泉の写真や解説文を見ていると湯につかりたくなります。春夏秋冬で趣が異なる露天風呂。お出かけの状況に合わせて温泉をセレクトするのに、とても役に立つガイドとなっています。

(北海道営業部 馬場康広)

あしたに向かって 異文化の歴史と向き合う

978-4-8739-382-2

串崎 英子 著

A5判 156頁 1650円

共同文化社 発行 978-4-8739-382-2



本書は釧路新聞に掲載された著者の串崎英子さんによる随想を1冊にまとめたものです。航空機の操縦免許を持つ著者の操縦席からの視点、アメリカ・イタリア・フランス・スイス・中国での旅の思い出、故郷である釧路についてのことなど、様々なエピソードが書かれています。

章ごとに話題が異なっているので、自分の気になる話題から気軽に読むことができます。航空機の操縦席で体験した迫りくる電巻の様子はとても緊張感があり、日常では味えない光景を追体験している感覚になります。

旅について書かれている章では、著者が体験した異文化をリアルに感じられ、自分にとっての当たり前が、異国の土地ではそうではないのだと気づかれます。海外におけるバスダイヤの呑気さの話を読みながら、「交通機関が定刻通りに来るのは、日本のありがたい文化だな」とページをめくりました。

誰かの旅の話聞きたい時、異国情緒に触れたい時に、ぜひ読んでいただきたい1冊です。

(経理部 佐藤若葉)

新刊情報

書名の下の数字は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

ウボボイまるごとガイド

北海道新聞社 編
A5判 128頁
978-4-86721-108-3 1540円

北海道の業界地図2024-25

北海道新聞社 編
B5判 160頁
978-4-86721-120-0 1760円

ファイターズ2023 オフィシャルグラフィックス

北海道新聞社 編
A4判 128頁
978-4-86721-144-4 1430円

決定版 北海道の温泉まるごとガイド

2024-25
小野寺 淳子 著
A5判 352頁
978-4-86721-151-7 2310円

道新プラス 道新受験情報

2024高校入試志望校決定特集
北海道新聞社 編
B5判 226頁
16747-11 990円

北海道新聞社

〒060-8711 札幌市中央区大通西3-6
☎011・210・5744

世界港湾史

世界の港と水運ネットワークの発達史
関口 信一郎 著
A5判 288頁
978-4-906740-80-4 3960円

改訂版 さつぼろ野鳥観察手帖

河井 大輔 著
四六判 288頁
978-4-906740-61-1 2200円

さつぼろ歴史&地理さんぽ

エピソードと写真で振り返る札幌の150年
山内 正明 著
四六判 296頁
978-4-906740-62-8 1980円

亜細亜社

〒080-0837 札幌市中央区南2条西5丁目
☎011・221・5396

労働と健康

ディセント・ワークの実現を目指して
福地 保馬 著
A5判 224頁
978-4-8329-6882-6 4400円

死者のカルシッコ

検文叢書6
フィンランドの樹木と人の人類学
田中 佑実 著
四六判 244頁
978-4-8329-6882-9 6380円

北海道大学出版会

〒060-0808 札幌市北区北9条西8丁目
☎011・747・2308

北の美術の箱舟

佐藤 友哉 著
A5判 486頁
978-4-89115-428-4 3850円

介護員詩誌

コレクシヨン
北岡 けんいち 著
四六判 287頁
978-4-89115-427-1 1100円

中西出版

〒07-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
☎011・785・0737

飼料作物栽培・調製ガイドブック

監修 三枝 俊哉／義平 大樹
A4判 204頁
978-4-86453-033-4 4819円

日本の環境を活かした酪農・チーズづくり

宮嶋 望 著
四六判 100頁
978-4-86453-095-5 1980円

デリーイマン社

〒0005 札幌市中央区北5条西14丁目
☎011・233・5261

北海道の農業 令和5年版

北海道協同組合通信社 編
A4判 60頁
978-4-86453-094-1 1650円

農業機械を知る 基本の作業機からロボット農機まで

監修 野口 伸／奥野 林太郎／
江部 成彦
B5変型判 216頁
978-4-86453-095-8 3981円

北海道農協年鑑 令和6年版

北海道協同組合通信社 編
B5判 586頁
978-4-86453-097-2 13200円

北海道協同組合通信社

〒0005 札幌市中央区北5条西14丁目
☎011・233・5261

道産子たちの沖縄戦記 あゝ沖縄

清水 幸一 著／楠 順一 編
A5判 592頁
978-4-902891-51-4 2970円

月形歴史研究会

〒061-2601 樺戸郡月形町市南6-1
e-mail: info@akikawa@sukigata.org
かりん舎（発売）

あしたに向かって

串崎 英子 著
A5判 156頁
978-4-8739-382-2 1650円

食料基地北海道を支える 物流ネットワークの課題と 強靱化に向けた戦略

阿部 秀明 編著
A5判 164頁
978-4-8739-383-9 1980円

戦国中山国王三銅器研究

佐藤 和夫 著
A4判 608頁
978-4-8739-385-3 11000円

共同文化社

〒0003 札幌市中央区北3条東5丁目
☎011・251・8078

紙の表 冬のキタラホール

今泉 道子
木版画 35・5センチ×50センチ

冬の夕方6時、地下鉄中島公園駅の階段を上ると、辺りはもう真つ暗です。散歩道を示すわずかな誘導灯を頼りに背中を丸めて歩いていると、踏んだ雪が寒さで「キュッ、キュッ」と音を鳴らします。右手にライトアップされた豊平館が見え、公園の池に架かる橋を渡るともう少しで目的地です。パアッと、ガラス張りのエントランスから漏れる灯り、周りの木々に飾られたイルミネーションの灯りが目に飛び込んできたら、「札幌コンサートホールKitara」到着です。これから鑑賞するコンサートへの期待が否応なく高まる瞬間です。

GEM木版画会 会員 札幌市在住

※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL <https://iword.co.jp>

